

チケットあれこれ



コンサートチケット

「音楽の都」と言われるだけのことはあって、シーズン中（9月1日から6月末まで）ウィーンではたくさんの音楽イベントが催される。ところで、心配の種はチケットの入手である。ここで旅行案内書には出ていないシークレット情報を御紹介しよう。

〔オペラの前売り券の買い方〕

ウィーンにある「連邦劇場」、つまり国立の劇場（国立歌劇場・フォルクスオパー・ブルク劇場・アカデミーテアター）で催されるもののチケットは、ただひとつの例外を除いて公演日の一週間前から売出される。従ってたとえば日曜日に上演される物の売出し初日は、その一週前の日曜日となる。

ひとつだけの例外とは12月31日のシュターツオパーとフォルクスオパーのチケットで、これだけは公演2週間前の12月17日から売り出される。

前売券売場は国立歌劇場のすぐ近く（西側）の建物にある。ハーヌシュガッセHausener Gassee番がその入口だが、ここから入った中庭の左側にあるガラスの扉の所である。

立ち見のチケットは前売りされず、全て当日該当する劇場のカッサ（当日券売場）で売られる。前売券売場の営業時間は月曜から金曜は朝8時から夕方6時まで、土曜日は朝9時から午後2時まで、日曜祭日は朝9時から昼12時までである。基本的には自分で出向いてチケットを買う事になるが、ウィーン市以外の地区や外国からの場合には公演日2週間前まで、という条件で手紙での注文も可能である。

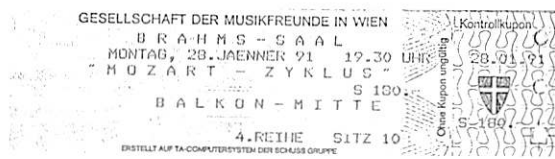
人気のある歌手や指揮者が出演する時にはチケットもすぐ売り切れてしまうが、入手の際の一応のコツは、始発電車が動き出す前に売場に行つて並ぶ事。フォルクスオパーの場合はオフィスの開く一時間前までに並べばまず大丈夫である。

非常な混雑が予想される場合にもつて整理券が発行される事があるが、これについてはオフィスに問い合わせるしかない（051444-2959または2960）。

〔立ち見席〕

立ち見のチケットは当日買う以外に方法がないが、前評判の良いものについては開演の3〜4時間前から並びはじめると、ちょっと買えるか買えないかのギリギリの線となる。普通のキャストならば直前でもチケットを入手できる可能性が大きい、2時間前から並べば買えるのももちろん、大体良い場所が確保できる。売出しは開演の一時間前からで、普通は一人2枚、人気がある公演の時は一枚のみ。

チケットの値段はバルテレ（平土間）の立ち見席が20シリング、バルコンとギャレリー（天井さじき）の立ち見席が15シリングである。立ち見席の場合も、売出す際の混雑が予想される場合には、前もつて整理券が発行される。この整理券は普通公演当日の朝6時頃に



コンサートチケット

劇場の西側、オペルンガッセ（Operngasse）に面した入口で発行されるが、どの公演についてこれが発行されるかについての詳細は、1カ月分ぐらいためてこの入口付近に掲示されている。立ち見席の場所取りは先着順であるため、チケットを買いやすいなや階段を駆け足で登る事になる。シュターツオバーの場合、正面入口から入るといくつもの階段があるが、向かって一番左端の階段がギャレリー、一番右端がバルコン、右からふたつめ（バルコンへ行く階段のひとつ内側）の階段がバルテレの立ち見席に通じる。

立ち見席に着いたらなるべく前の列の中央に陣取るのが得策だが、自分の縄張りを明示するためには手すりにハンカチやスカーフ等を結び、手すりは並行している上下2本のバーを中心に、よりかかって大丈夫なように作られている。太めで布が巻かれている一番上のバーに目印として結んだハンカチは、場所取りのルール違反として無効になる事があるため、一本下の鉄のバーにハンカチを巻く事をお勧めする。こうして席の確保さえすれば、劇場の外に出て食事をする事も自由である。

バルテレの立ち見席はステージを見るためには最高だ。音が一番良いのはギャレリーの立ち見席。バルコンの立ち見席は音はあまり良くないが見やすいのと比較的すいている事で、案外お勧め品かも知れない。

開演15分前になってまだ座席のチケットが余っている場合、学生は学生証を提示するとその残券を一律50シリングで買う事ができる。バルテレのど真ん中、という事もあるので「どうせ立つから」とあまり汚い恰好でいくと、そんな場合に肩身の狭い思いを味わされる。

ところでシュターツオバーの立ち見席、及び学生用残券を手に入れるには前述の劇場西側、オペルンガッセにある入口から入って並ぶのだが、入口付近では混沌としていても、最終的には立ち見席の列と学生用残券の列とに分かれる。その際、列の後方から見ると、電話ボックス付近から始まっている列は学生用残券を待つ列なので要注意。間違えてここに並んでいると、立ち見のチケットを買いそびれてしまう事にもなりかねない。

フォルクスオバーの立ち見席は一律15シリングである。どこに立っても良く見えるし良く聞こえる。お薦めはギャレリー立ち見席の1列目で、ここは階段になっているため、疲れた時など腰を下ろす事が出来る。

〔当日券〕

座席の当日券は、開演1時間前から立ち見席用のカッサの反対側、ケルトントナー通り（Karlnerstrasse）側にあるカッサで手に入れる事ができる。国立の劇場のボックスオフィスやカッサではキャッシュカード（アメックス・ダイナース・マスターカード・ビザ）も利用できる。ただし立ち見の券は現金引換である。できれば釣銭も不要となるように、コインを用意した方がよい。

クロークにはオペラグラスも用意されており（ただしあまり高性能ではない）、コート等を預けた場合には12シリングで借りる事ができる。単にオペラグラスだけを借りる場合に

ÖSTERREICHISCHE BUNDESTHEATER WIEN
オーストリア
 Staatsoper (STOP), Volkstheater (VOP), Burgtheater (BURG), Akademietheater (AKA)
BESTELLKARTE – TICKET-ORDERFORM – 予約申し込みはがき

Theater theatre 劇場名	Datum Date 公演日	Aufführung Performance 演目	Anzahl Number 枚数	Preis Price 金額

Name und Adresse
Name and Address
氏名・住所

Date: Date 日付

Unterschrift/Signature
サイン

劇場以外の住所に送付する場合は、予約申し込みの宛先は劇場または本館で、届かない、住所誤りでの申し込みは責任がとれません。

An den

Osterreichischen
Bundestheaterverband

Bestellbüro

Goetheg. 55b-1
A-1010 Wien
AUSTRIA / EUROPE

VIA AIRMAIL

日本からの申し込みハガキ(銀行振り込み前払いで、手数料4~5千円が必要/1991年9月より)

は数百シリングのデポジットが必要。
 シュターツオパーのケルントナー通り側には楽屋へ通じる入口がある。チェックが厳しくて中へは入れないが、公演後ここで待っていると歌手にサインしてもらええるチャンスがある。

【ウィーンフィル定期】

年に10回(コンサートそのものは土日2回公演なので計20回)催されるウィーンフィル定期演奏会のチケットは、先祖代々からのウィーンフィル会員の人が会場の全席を占めているため、公式にはどのコンサートも全て売り切れである。しかしほぼ毎回会員からのキャンセル申し出があり、その券に限って売出される。売場はムジークフェラインのインペリアルホテル側にある木の扉を押し開けて入り、守衛室手前を左に折れて奥(突き当たり)の階段を上った所にあるウィーンフィル事務所(125056625)である。

事務所は月曜から金曜までは朝の9時から12時と午後3時から5時半、それに土曜日の午前中9時から12時まで。

立ち見席に限っては毎年9月にシーズンを通しての立ち見席チケットセットが一般にも売出される。この立ち見席一般売出しはシーズン初めの定期演奏会直前の日曜日、という事になっているが、一応前もって事務所に問い合わせるのが望ましい。

キャンセルチケットを手に入れるには、まず該当する定期公演直前の月曜日(月曜日が祭日の場合は火曜日)に事務所に連絡し(電話で構わない)、ウェイティングリストに名前を登録してもらう。その後木曜日あたりに問い合わせるとチケットの有無などを教えてくれるので、そこで取りに行く日や方法を定める事になる。いつ問い合わせるべきかは、最初の申し込みの時に指示してくれる。

チケット申し込みは1人4枚まで。ただしキャンセルチケットの数があまりない、と予想される際には2枚に限られる事もある。いずれにせよ最初に申し込む際にチケットの値段のおおよその希望なども伝えておいた方が良好だろう。外国からの国際電話も受け付けてくれるし、期日に間に合えば手紙での申し込みもできる。ただし手紙申し込みの場合も、電話での問い合わせは行わなければならない。立ち見席のキャンセルも出る事があるので「立ち見希望」も可能である。

【ウィーンフィルのニューイヤークンサート】

ウィーンフィルの演奏による1月1日のニューイヤークンサートチケットを手に入れるのはなかなか至難の技だが、ルールを御紹介しよう。

数少ない余剰(キャンセル)券販売には、たとえば1994年1月1日のコンサートについてはその前年、93年1月2日に事務所に配達される郵便を介しての申し込みのみがそのペースとなる。1月1日は祭日で郵便配達がないから、「速達」を上手に利用したり毎日一通ずつ出してみたり、と、何らかの方法は考えられよう。ただしその際の差出人の住所



167-308
1992

10:15
ARCADIA



プログラム

がウィーン市内ではその申し込みは無効となり、ウィーン市外、または外国からの手紙のみが受け付けられる。受け付けられるとは言っても、実際にチケットが手に入るかどうかは運を天にまかせるしかない。

12月31日のジルベスターコンサートも申し込みの方法はニューイヤークンサートと同じだが、こちらの方は差出人がウィーン市内の住所であっても差し支えない。

〔ムジカーリッシエ・ユージェント〕

ムジークフェラインの守衛室向かいの階段を数段登ると、ムジカーリッシエ・ユージェント（ルジユネス・ミュージカル）の事務所がある。ここ管轄のコンサートも結構良いものがたくさんあるが、安いチケットを若い会員に優先的に売るのがこの団体の仕事であるため、残券はいつも比較的少ない。それでもチケットが余っている場合には、この事務所で月曜から金曜の夕方5時から7時半の間に買うことができる。1ヶ月先の公演のチケットまで手に入れられる。電話予約はお断り。

〔ムジークフェライン〕

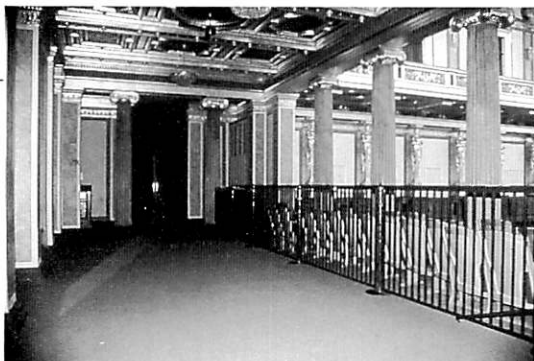
ムジークフェラインで催される普通のコンサートのチケットは、この建物のカールスプラッツ（Karlplatz）側にある前売場で手に入る。業務時間は月曜から金曜までは朝9時から夕方6時まで、土曜日は昼12時までである。前売りはいつから、という規定は特にならない。電話で予約する事も可能であり（05058190）、チケットの団体予約等かなりフレキシブルに相談に乗ってくれる。立ち見席も前売りで買える。

年会費400シリングを払って会員になると「アボンヌモン」というシリーズ券（たとえば室内楽シリーズ、世界のオーケストラシリーズ等々）が割引料金にて手に入る。この会場で音楽祭が催される年には、会員になっておくと音楽祭関係のチケットを通常売出しより早めに買うことができる。

開場と当日券の売出しは開演30分前から。ウィーンフィルの定期などを立ち見で聞く場合には、人より少しでも早く立ち見席に駆け上がりた、と気がせくが、正面入口の鍵は、どうも一番右端の扉から開けられる事が多いようである。せっかちな人はこの右の扉の前で待っている事。

チケットは持っていないが立ち見で構わないので何とか入れてほしい、という時に、切符もぎりのおじさんにチップ（50から100シリング程度）を握らして目をつぶってもらおう、という方法は最近とみに困難になった。こういった、言わば不正行為が数年前新聞沙汰になった事があり、それ以来「表立っては」どこでもやっていない。ムジークフェラインの場合も、もしチップを貰った事が知れるとその人は即日解雇になるそうである。

比較的效果を発揮するのは、プログラムをを買う際にチップをはずむ事。プログラムを売る人の性格にもよるが、バルコンなどでは前列に空席があったりするとそこに案内してくれたり、立ち見にいても座席に案内してくれたりする事がある。「チップをはずむ」とは、



ムジークフェラインの
立ち見席

20 シリングぐらい多めにあげる事を意味する。それ以上あげてもあまり効果はない。

〔「コンツェルトハウス」〕

コンツェルトハウスもチケットを買うシステムはほぼ同様だが、こちらの方が少し規則が厳しい。前売り場は建物の左端にあるが、月曜から金曜までは朝9時から夕方6時まで、土曜日は午後1時まで開いている。

年会費450シリング出して会員になると、普通の人には公演の3週間前からしか買えないチケットを4週間前に買うことができる。シリーズ券も割引きとなり、音楽祭のチケットも早めに買える。ただし音楽祭のチケットはそれだけ別にまとめて販売される。

当日券は開演30分前から。新しい試みとして「シユプリンガーカルテSpiegelkarte」という名のチケットが開演直前に当日券売場より発行される事が時々ある。これは前売りのシリーズ券保有者が来場せず、帳簿の上では売り切れになっているのに会場に空席が目立つ時、この空席を少しでも埋めるために発行される格安のチケットである。これを買うと、空いている所ならばどこに座っても構わない。従って「チケット売り切れ」のコンサートでも最後まであきらめずにいると、中に入れる可能性がある。特に天候が急変した時などはチャンスかも知れない。尚、この会場に立ち見席はない。

会員はウィーン市内からでも、非会員はウィーン市外のみから電話でのチケット予約ができるが(☎72486622)払い込みは前もってせねばならず、「当日精算」は御法度。

〔「ミュージカル」〕

ミュージカルのチケットはそれぞれの劇場で前売り販売しているが、かなり先の日程まで売り切れている場合が多い。ただオペラなどと違って連日同じ出し物であるため、特に日時を指定さえしなければ何とかなる可能性がある。

〔「その他」〕

街のチケットビューローに切符入手を依頼するのも簡単で良いが、一枚につきチケット代金の22%の手数料が加算される。無理を言って別のチケットビューローから買いつつてもらうような事になると、22%+22%で合計44%の割り増しになる事がある。今はやりのミュージカルのチケットだけは、手数料が30%を越す事も覚悟しなければならない。大きなホテルでもチケットをとってもらえるが、値段の上限を明確にしておかないと、時々んでもない値段のチケットを買わされる羽目に陥る事がある。特に音楽祭開催中のザルツブルクのホテルでは注意を要するので念のため。

どうしてもチケットが手に入らなかったコンサートでも「SUCHE KARTE (ズーヘ・カールテII切符求む)」と書いた自作の看板を持って会場の入口で待っていると、結構キャンセルのチケットを個人的に売ってもらえる事がある。